

豊橋市小・中学校空調設備に対する  
基本的な考え方

平成30年10月  
豊橋市教育委員会

## 1 設置の趣旨

平成30年4月から「学校環境衛生基準」が改正され、望ましい教室温度がこれまでの「10度以上、30度以下」から「17度以上、28度以下」へと変更されたことを踏まえ、改めて夏場の教室温度を朝・昼の時間帯で測定したところ、平成30年7月には30度を超える日が続く結果となった。(参考資料・図1)

このことは、扇風機の使用や緑のカーテンの設置に取り組むことで、教室内の温度上昇を抑制することができるのとこのこれまでの考えを見直す契機となり、酷暑の気象状況であっても、良質な教育環境を整えるため、小中学校へ空調設備を設置するものである。

## 2 空調機器を設置するにあたっての基本的な考え方

### (1) 設置対象とする教室

市立小学校52校、中学校22校にある教室のうち、以下の教室に空調機器を設置する。

○すべての普通教室

○授業で使用する特別教室（理科教室、音楽教室、図画工作教室、美術教室、技術教室、家庭教室、図書室、コンピューター教室、国際教室）

○管理諸室（職員室、校長室、保健室）

- ・コンピューター教室及び管理諸室については、既に設置済みである。
- ・特別教室への設置数は、文部科学省が定める「公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」に基づいて平成9年に教育委員会で定めた「必要教室等基準表」による必要教室数とする。（参考資料・表1）
- ・特別教室は、利用方法（使途）に変更がない教室を設置対象とする。  
ただし国際教室については、日本語指導を必要とする児童生徒数が多く（概ね小学校では50人以上、中学校では40人以上）、かつ指導学級を複数設置している学校を対象とする。

### (2) 効率的かつ効果的な整備の推進

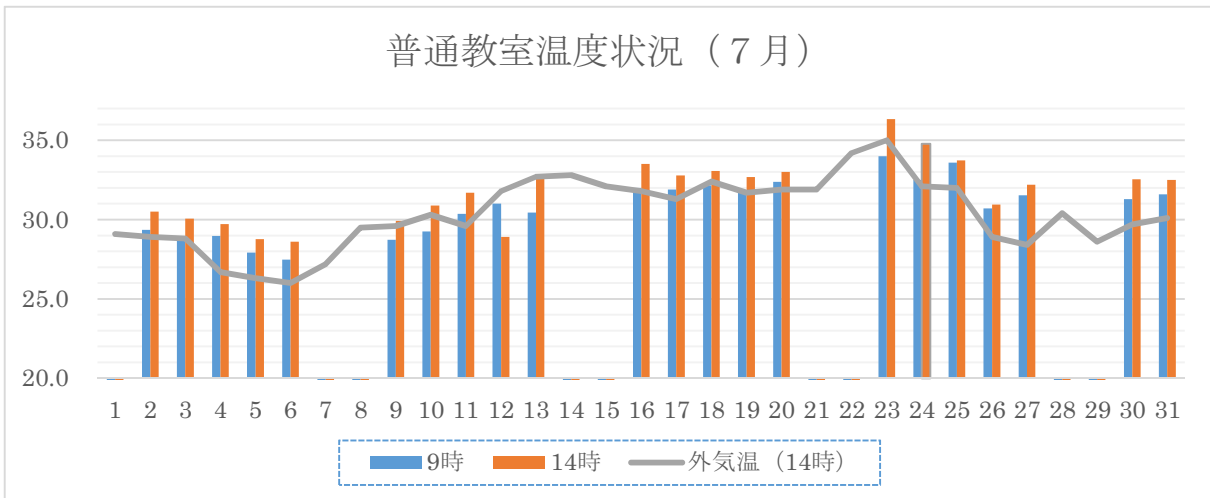
○民間活力の活用

○財源の確保

- ・空調機器の設置については多額の経費が見込まれることから、可能な限り教室の面積や、児童・生徒数といった各学校の状況に応じた空調機器の設置ができるよう、特に、設計段階において各校毎に具体的なキュービクルの容量、都市ガス、プロパンガスの状況、校舎及び教室の配置、また、ランニングコストや維持管理の難易などを考慮し、ランニングコストも踏まえた環境負荷の少ない機種を選定ができるよう、民間がもつ技術やノウハウを最大限活用していく。
- ・空調機器の設置については文部科学省の学校施設環境改善交付金、及び地方債の発行など財源確保に向けて最大限取り組む。
- ・良質な学習環境を早期に整えるため、平成31年度末までの設置完了を目指す。

< 参考資料 >

1 平成30年7月 市内8校の普通教室平均室温（図1）



参考：豊橋市の温度（出典：気象庁）

	平均気温	最高気温	最低気温
過去10年の7月気温（平成20～29年）	26.6℃	29.8℃	23.3℃
平成30年7月気温	27.7℃	31.5℃	24.8℃

2 対象校と予定教室数

	対象校	予定教室数（普通教室、特別教室）
小学校	52校	普通教室 約1200室 特別教室 約500室
中学校	22校	
計	74校	

3 小・中学校における必要な特別教室等基準表（表1）

■ 小学校

学級数 (特別支援学級除く)	6～11	12～17	18～23	24～29	30～41
理科	1	1	1	2	2
音楽	1	1	1	1	2
図工	1	1	2	2	2
家庭	1	1	1	1	2
コンピューター	1	1	1	1	1
図書	1	1	1	1	1
特別活動 (国際教室含む)	1	1	1	1	1

■ 中学校

学級数 (特別支援学級除く)	3～5	6～11	12～23	24～29	30～35
理科	1	1	2	3	3
音楽	1	1	1	2	2
美術	1	1	1	1	2
技術	2	2	2	2	2
家庭	2	2	2	2	2
コンピューター	1	1	1	1	1
図書	1	1	1	1	2
特別活動 (国際教室含む)	1	1	1	1	1